愛光NEWS
2024年2月

2024（令和6）年　2月　発行
（編集）愛光本部企画室
（TEL）043－484－6391
（HP）https://www.rc-aikoh.or.jp/

Aikoh フォーラム「ともいき～認知症と共に生きる」とは

18 日（日、）はちす苑主催、佐倉市共催、愛の灯台基金後援による Aikoh フォーラムが開催されました。今回は、映画「オレンジ・ランプ」のモデルにもなった若年性認知症当事者である丹野智文氏を講師にお迎えしました。当日は認知症当事者やその家族、民生委員、福祉・医療関係者等、スタッフ、ボランティアも含め 130 名程の来場があり、皆さん真剣に耳を傾けられていました。時にはご自分の体験を重ねて涙を流している方もいらっしゃいました。

□事業経過など（2024.2.1～2.29）

1	木	内部登用試験
2	金	本部スタッフ会議/本部実績会議
6	火	業務執行会議
7	水	地域食堂委員会/広報委員会/GHPT
9	金	メンター委員会
13	火	防災委員会/衛星・感染症対策委員会
14	水	人材育成研修
16	金	メンティー交流会
18	日	Aikoh フォーラム「認知症と生きる」
19	月	嚥下研修/佐倉圏域事業部実績会議
20	火	経営戦略会議
21	水	研修委員会/栄養改善委員会/障害者支援事業部実績会議/財務 PT/地域食堂ともいきお弁当販売
22	木	高齢者福祉事業部実績会議/はちす苑経営改善 P
23	金	障害者作品展（23～25）
26	月	嚥下研修
27	火	法人コンプライアンス委員会/業務執行会議
28	水	地域福祉事業部実績会議/褥瘡ケア研修
29	木	労務管理者研修/後援会運営委員会

■出来事

□【令和６（2024）年度　介護保険の改定および障害福祉サービス等報酬改定】

令和６(2024)年４月の障害福祉サービス等の報酬改定および介護保険の改定の内容が概ね決定した。介護報酬改定については、「地域包括ケアシステムの深化・推進」「自立支援・重度化防止に向けた対応」「良質な介護サービスの効率的提供に向けた働きやすい職場づくり」「制度の安定的・持続可能性の確保」を基本的な視点としている。

また、障害福祉サービス等報酬改定は、「横断的な改定事項」については、

・地域生活支援拠点等において、情報連携等を担うコーディネーターの配置を評価する

・強度行動障害を有する障害者の受入体制の強化

・感染症発生時に備えた医療機関との連携強化

等の内容となっている。４月にむけて、各事業所、事業部、法人で必要な整理、準備を行っています。

■月報から

□ Aikoh フォーラム　２月 18 日　丹野智文さんの講演会を開催

18 日、　丹野氏のセミナーを開催、久しぶりのリアル開催で 100 名以上の参加となった。一般市民や当事者、当事者ご家族、認サポ講座を受けた経験がある方、ボランティアさんなどが多く参加された。

ご自身の認知症の診断を受けてからの葛藤、受け入れてからの生活や職場での葛藤、このようなセミナー・講演以外でのさまざまな取り組みなどについて話していただく。

（認知症の方への支援する上で）

①環境が大切　人と人とのつながりある環境を保つ　家族以外の人との関係を保つ

②一緒に活動してくれる人は「パートナー」

③できることを奪わないでほしい(認知症になると　何もできないと思われる)

④できるまで待ってほしい　何でもかんでもやらないでほしい　先回りをしないでほしい

⑤失敗しても怒らないでほしい　工夫することでできるように支援してほしい　それが自信につながる

⑥認知症は、年齢関係ない　症状はみんな同じ

⑦認知症だから「すぐに介護保険のサービスを使わなければ」ではない

⑧行動・活動を奪わない　特に財布を当事者から奪ってはいけない

⑨これからは、認知症の人でも普通にスマホやタブレットを持つ時代　これも、奪ってはいけない　人に助けを求めることができなくなる

⑩どうしても〇〇認知症と言う言葉が先行してしまう。病気としてではなく、本人を見てほしい

⑪「せっかく買ってきたのに、使わない」とよく相談で受けますが、本人も一緒に買い物に行ってますか？本人が自分で決めて買ってますか？

⑫認知症は予防できない　認知症は避けられない　だから予防ではなく、認知症に備える・準備するが当てはまるのではないか

前述した丹野さんからのメッセージを実現していくことが、私たちに課せられている。

（はちす苑苑長　麻生　知明）

□障害者作品展「ふれあいギャラリー」

2/23～25、佐倉市立美術館で佐倉市障害者作品展「ふれあいギャラリー」が開催され、めいわからは２名の利用者が出品した。透明フィルムに下絵を書き色を塗り、縁を彩ると素敵なステンドグラスの出来上がり。出品した利用者のコメントは・・・Ａさん「色をたくさんつかってカラフルにぬりました。うすくぬるのと、こくぬるところの色のはいちになやみながら作りました。きれいにつくれたからよかったです!!」、Ｂさん「たくさんいろを使うことを考えました。」とのこと。

利用者の持つ力と、それを作品として昇華させる職員のアイデア、熱意が生み出した作品だ。

Ａさんの作品	Ｂさんの作品

（めいわ課長　中田　憲一郎）

□新年会

１３日から年度末の担当者会議がはじまった。ご家族後見人と一緒に１年間の生活を報告し個別支援計画の評価、来年度の計画を説明する大切な機会である。今年度の新しい取り組みとして利用者本人にも担当者会議に参加していただくことになった。意思決定支援のありかたとして考えれば今まで行ってこなかったことが不思議なくらいだが、一カ所にずっと座っているのが難しい利用者も多く担当者会議に参加していなかったがご家族と一緒に参加することで落ち着くこともあり、ご家族も一緒に参加することで利用者の説明がわかりやすいなど、双方にメリットがあった。ＺＯＯＭを希望されるご家族もいたため柔軟に対応し３カ所でつないで母親と弟さんの家をつなぎ担当者会議を行い利用者の顔を見ることができて感謝された。国の脱施設化についても説明し今後も施設入所支援と生活介護サービスのご利用を継続して希望されますかと確認し、参加されたすべてのご家族から継続利用希望のお話をいただいた。

（ルミエール課長　原　宏之）

□強度行動障害アドバンス研修終了

半年をかけ不適応行動を起こす利用者の支援技術を学ぶ『強度行動障害アドバンス研修（東京都が主催)』が今月をもって終了した。

鳥取大学の井上雅彦氏を中心とし経験豊かな講師による研修内容は改めて基礎を学ぶ良い機会となったようである。

今回の研修で入手した井上氏が考案した『ストラテジーシート（分析から実践に移すための簡易シート)』『アプリを活用したスキャッタープロット（統計分析)』は問題行動の頻度を可視化すための貴重なツールとして引き続き活用していきたいと思う。

今回の研修で取り上げた利用者の支援の一連の流れについては、今後の糧となるようロールモデルとして資料としてまとめ月次会議にて勉強会を実施した。

支援技術の向上は職員に余裕を生み新たな利用者の獲得に繋がる。今後も引き続き勉強会を実施するなど職員のスキルアップに努めることとしたい。

（めいわ通所部所長　菊地　暁生）

□バーベキュー

25 日　利用者からのバーベキューをしたいという声に応え、自治会行事としてバーベキューを行った。はちす苑からバーベキューコンロを借り、準備万端だったが、当日はあいにくの雨となり、予定していたリホープ裏の芝生での開催は出来なかった。玄関先に設置したバーベキューコンロと食堂のホットプレートで調理し、2 階食堂に集まった利用者が食事を楽しんだ。焼きそば、フランクフルト、牛肉、焼き鳥、海老、ホタテなどリクエストに応じて購入した食材をたくさん食べることができた為、「満足」「嬉しかった」「美味しかった」との声が多く聞かれた。学生ボランティア 2 名にも手伝ってもらい、会場の急な変更にも対応できた。次回は晴天の元、外でやりたいと期待は膨らんでいる。

（リホープ課長　稲垣　直子）

□久しぶりのボーリング大会！

14 日(水)、ユーカリが丘にある「VEGA ユーカリボウル」で佐倉ライオンズクラブ主催のボーリング大会が約 4 年ぶりに開催された。佐倉ライオンズクラブは毎年 2 月に佐倉市指定管理事業所 2 カ所“佐倉市よもぎの園(愛光)、南部よもぎの園(千手会)”に声を掛けてくださり、招待していただいている。

コロナ禍で中止が続いていたが利用者もこの時期になると「今年はボーリング大会あるの？」と職員に聞いてくる場面もあり楽しみに待ち続けていた。大会当日は利用者 36 名の参加となり 10 レーンを借り切って 2 ゲームを楽しんだ。開会式では佐倉市長も駆けつけてくださり開会宣言をしていただいた。久しぶりのボーリングのためか上手に投げる方もいれば、ボールを転がすというよりは若干宙を舞うような投げ方⁉をする利用者もいたりと和やかな雰囲気であった。また、車イスの方や、視覚障害がある方々も楽しまれていたので良いひと時が過ごせた。このような時間を提供してくださる“佐倉ライオンズクラブ”の方々に感謝している。

（佐倉市よもぎの園主任　近藤　真一）

□新規ケース止まらず　児童の依頼は倍増

定期的に開催されている「委託相談支援事業所連絡会」にて昨今頻繁に話題に挙がるのは、児童のケースについてである。現在、佐倉市では親からの申請があれば、どのような児童でもサービスの利用ができている状況で、主治医の意見書や手帳の取得、発達検査等は必要ない。ここ数年の児童のケースは増加の一途をたどり、基幹相談であるアシストに於いても年を追う毎に前の年より倍増している状況で、佐倉圏域に事業所を構えた「かけはし」へも１月開所から新規のケース依頼は継続して入り、相談員１名では担当を持ち切れずアシストと相談し早くもケースの分担を実施しているところである。

放デイはどこも飽和状態で空きはほぼない状況であり、かといって学童もゆとりがあるわけではないのが現状である。専門性を持って受け入れられる質の担保は必須のため、単に受け皿が増えれば解決する問題でもなく課題は尽きない。

必要な人に必要なサービスが行き届くよう取り巻く輪に「かけはし」もしっかりと加わって動いていきたい。

（佐倉市よもぎの園管理者　戸室　輝大）

□カフェの活用

新型コロナウィルス感染症の流行前、カフェスペースの活用について議論していた。試行的に外部向けのカフェ実施を検討していたが、実施できずにいた。

今回、城の辺地区社協の買い物支援に車両提供、福祉委員としての活動に参加等、地域活動をする中で、買い物支援のサポーターとその利用者の懇談会開催にあたり、カフェ利用の打診があった。カフェでの飲食もしたいという希望を受け、メニューの選定や対応等、準備をすすめている。これまでも自治会の方、地区社協の方、福祉サービス等の事業所の方が見学に来所され、カフェとして興味を示していただいていた。

利用者・職員共に、初の取り組みをどう実行するか期待・不安がありつつも、前向きに考えている。3 月中旬の実施のため、追って報告したい。

（ワークショップかぶらぎ管理者　近藤　美貴）

□感染対策・食中毒予防

コロナ感染症、インフルエンザ感染症の流行が続いている中、施設内では幸いにも感染発生はなく、入居者 4 名、世話人 3 名とも体調を崩すことなく過ごせている。食品管理にも気を配ることで、食中毒の発生も確認されていない。今後も、安全で安心できる生活環境、食事提供できるよう、感染予防と食中毒予防に引き続き注力していきたい。

（ジョーの家　髙橋　健）

□佐倉市グループホーム事業所連絡会

15 日、佐倉市グループホーム事業所連絡会があり、事業所間のネットワークづくりとサービスの向上や共通課題の解消を図る場を目的として開催された。

他のグループホームの参加者に色々質問し、共通する思いや様々な情報を貰う事が出来た。「利用者数」「職員体制」「世話人について」「情報共有の方法」「悩んでいる事」「実施している行事」「緊急時の対応」等聞くことができた。

「情報共有の方法」についてはどのホームも連絡ノートやＬＩＮＥを活用しているとの事だった。現在山王の家では、PC 上の支援ソフトを活用しているが、世話人と支援員、職種間の情報共有としては課題も感じている。今後、職員の意見を聞き、取り入れて支援に生かしていければと思っている。

（山王の家管理者　岡本　綾子）

□まめまきあそび

児童センターの節分は「まめまきあそび」と銘打って開催している。あそびを通して日本の伝統文化を伝えたいというねらいもある。今年は、豆に見立てたボールを持ち、中央の鬼に捕まらないように逃げて福の神に届ける、というかけっこあそびを行った。本来の意味とは少し違う内容だが、そこはご愛敬だ。「よーい、ドン！」の合図でみんな張り切ってスタート！鬼の様子を伺い右に左に逃げながら、かけっこを楽しんでいるようだった。

クライマックスは今年も当センター自慢の大きな赤鬼がにこやかに登場！驚いて泣き出す子、全く平気な子と、子どもたちの反応は様々だ。そしてその様子を楽しそうに見守るママやパパの姿も微笑ましい。

悪いものを追い払い新しい年に幸運を呼び込む節分。みんなの心の中に鬼はいないかな？泣き虫鬼やイヤイヤ鬼とさようならをして、また明日も元気にあそぼうね。

（南部児童センターインストラクター　吉田　知加子）

□地域の方との関わり

以前より毎月公民館の玄関先に、季節の折り紙を飾り付けていた方から「学童の子どもたちに、折り紙の折り方を教えましょうか？」と話があり、3 月のひな祭り時期に合わせた企画を実施することとなった。当日は１～３年生６名の女児が参加し、おひな様つくりを行った。簡単に作れるお雛様は、かわいらしい形で、色や柄も子どもたちの好みのものだった様子。制作中は、折り紙が苦手な子どもにも丁寧にゆっくりと教えて下さり、子ども達も最後まで自分で作り終えることができて満足した様子だった。今後もこのような機会を増やし、地域の方との交流を持てれば良いと感じた。（和田学童保育所）

（学童保育所主任　小出　博美）

□「サロンド・ともいき」の活動

「サロンド・ともいき」は、毎週金曜日、はちす苑と南部地域福祉センター合同で、地域の 6～8 名の利用者がボランティアによる送迎で当センターに来所され、脳トレや音楽体操、・ゲームなどに参加。毎回賑やかで活気のある活動となっている。

2 月 23 日（金）祝日（天皇誕生日）には、屋内にて、パラリンピックの正式競技にもなっている「ボッチャ」をみんなで行った。「ボッチャ」は、赤と青の 2 チームに分かれ、初めに置かれた白色の「ジャックボール」に向かって各チームが赤色、青色のボールを投げて近づけていく。最終的に白いジャックボールに最も近づいたボールの色（赤青どちらか）のチームが勝ちというルール。ボッチャの試合が始まると、多くの利用者は初めての経験であるにもかかわらず、高齢者とは感じさせないような、真剣にボールを投げている元気な姿は、選手そのものだった。参加者みんなでチームになり、大きな声を出して応援するなど、日頃味わえないような新鮮な空間は、センターのスタッフも沢山の元気をもらうことが出来た。　（南部地域福祉センター　青山　秀人）

□佐倉市支え合い講演会

４日（日）、佐倉市主催による支え合い講演会が志津コミュニティセンターで開催され、地域の方 150 名が参加された。内容は「ご近所パワー活用術」と題し、神奈川県川崎市で高齢者を支える活動をされている、認定ＮＰＯ法人すずの会代表の鈴木恵子氏に講演して頂いた。この講演会は各包括の生活支援コーディネーターも企画から関わり、実際すずの会を訪問し活動にも参加させていただいた。鈴木さんはご両親 4 人の介護経験から仲間と一緒に活動を立ち上げられ、今では厚生労働省や海外からの視察を受け入れメディアでも取り上げられるまでになった方でもある。

実際の活動の場に参加させていただくと、支える側の皆さんも高齢で最高齢は 90 代。支える側・支えられる側関係なく、皆さんがその場所を拠り所にされて生き生きされていたのが印象的であった。住民１人１人と向き合い、様々なネットワークを駆使して支え合い活動をされており、まさにご近所パワーを感じた。今回の講演会に参加された皆さんが、自分の地区に持ち帰り、支え合いの輪が広がっていくことを願っている。

（総合相談センター所長　森　由美子）